

DOJIN

R18

成人向け

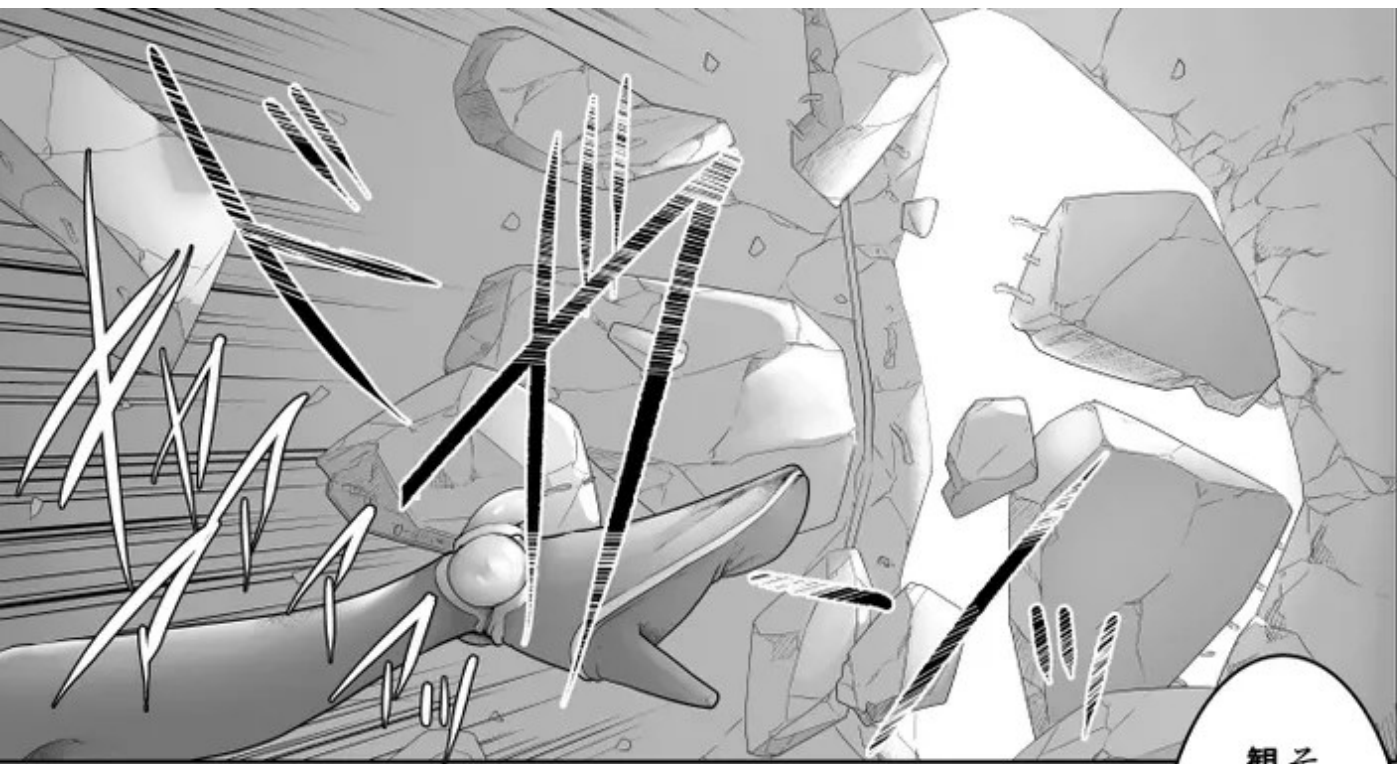
戦隊ヒーロー 快楽墮ち

計画

モノクロイド

Monochroid





そろそろ…
観念したらどうだ



貴様に……
勝ち目はない

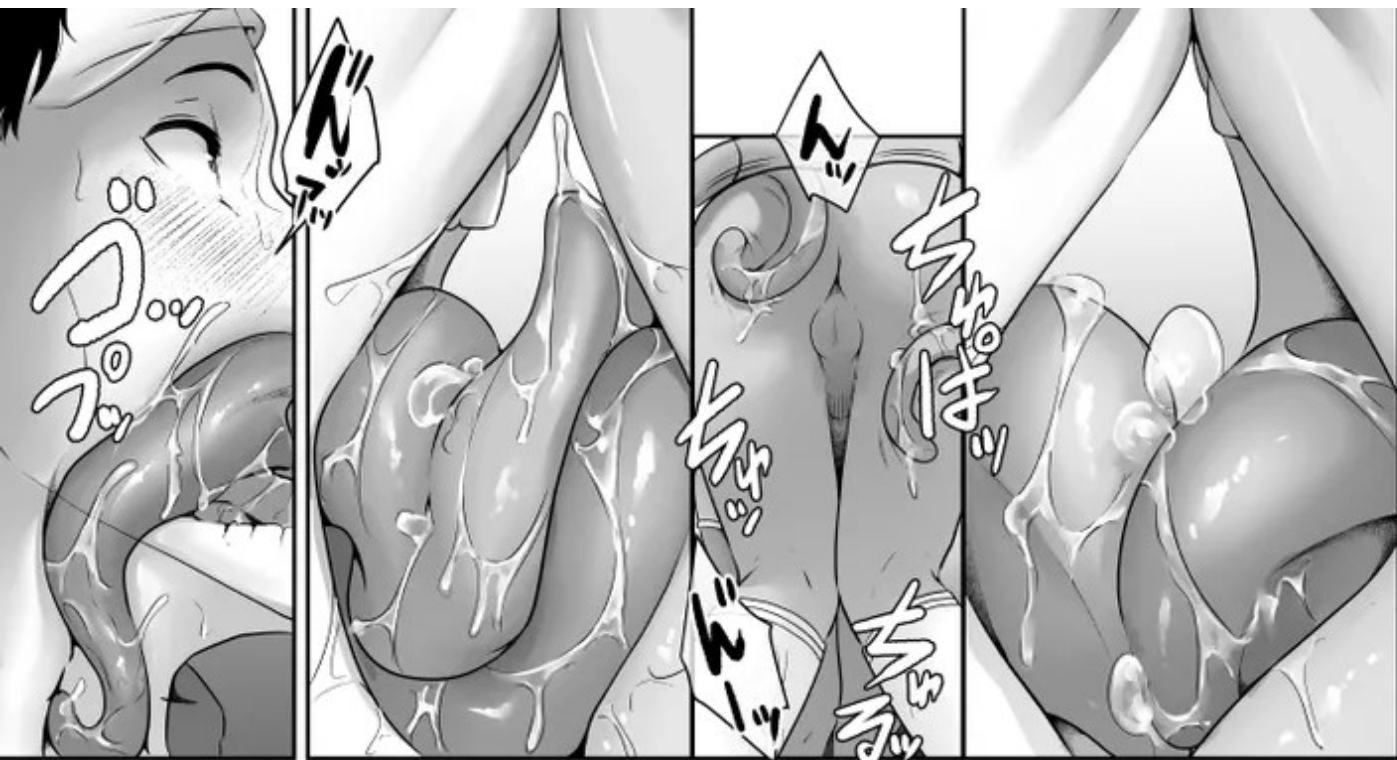


怪人「蛸粘人」
スライムワーパー











ずっと
されたかったん
でしょう?

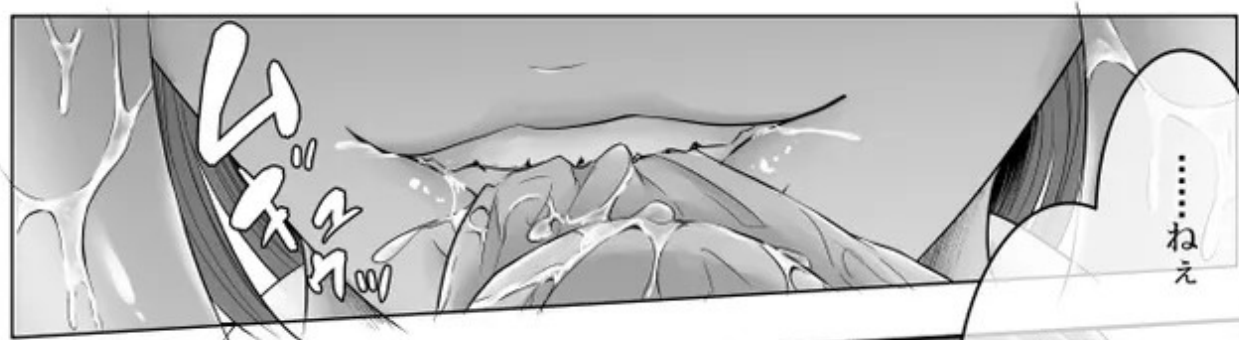
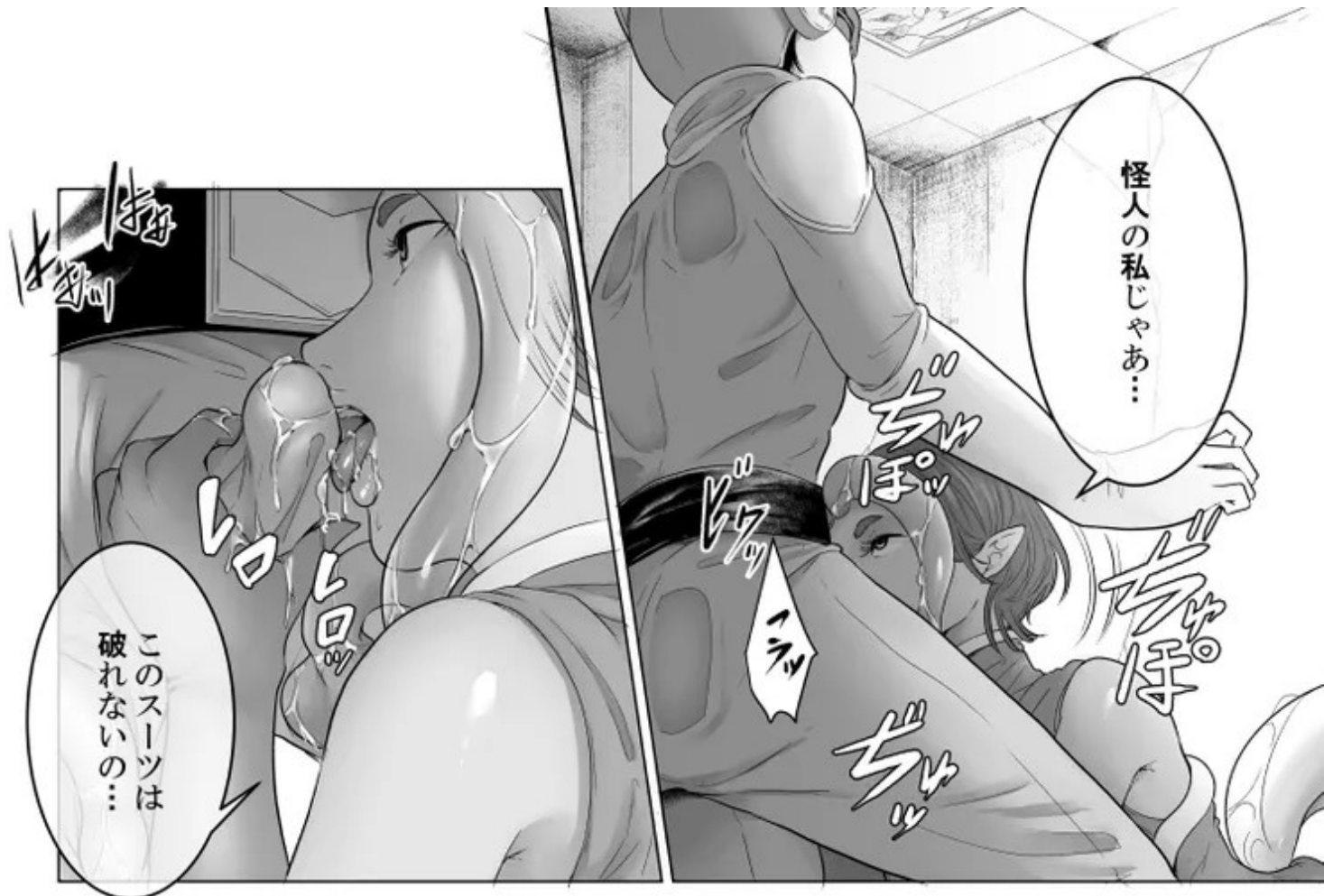
そんなに怒ってる振り
しなくても
いいんじゃない?



貴方の怪人を見る目線に
気が付かないとでも思った?

みんな
あなたと
やりたが
ってたわよ

へっ...





落ちて落ちて落ちて
落ちて落ちて落ちて

こいつは怪人で
今も私を倒そうと...

直接舐めたら
今の比じゃないくらい
気持ちいいわよ



お、俺は
ヒーローなんだあツツ





駄目だあああ

ありがとう





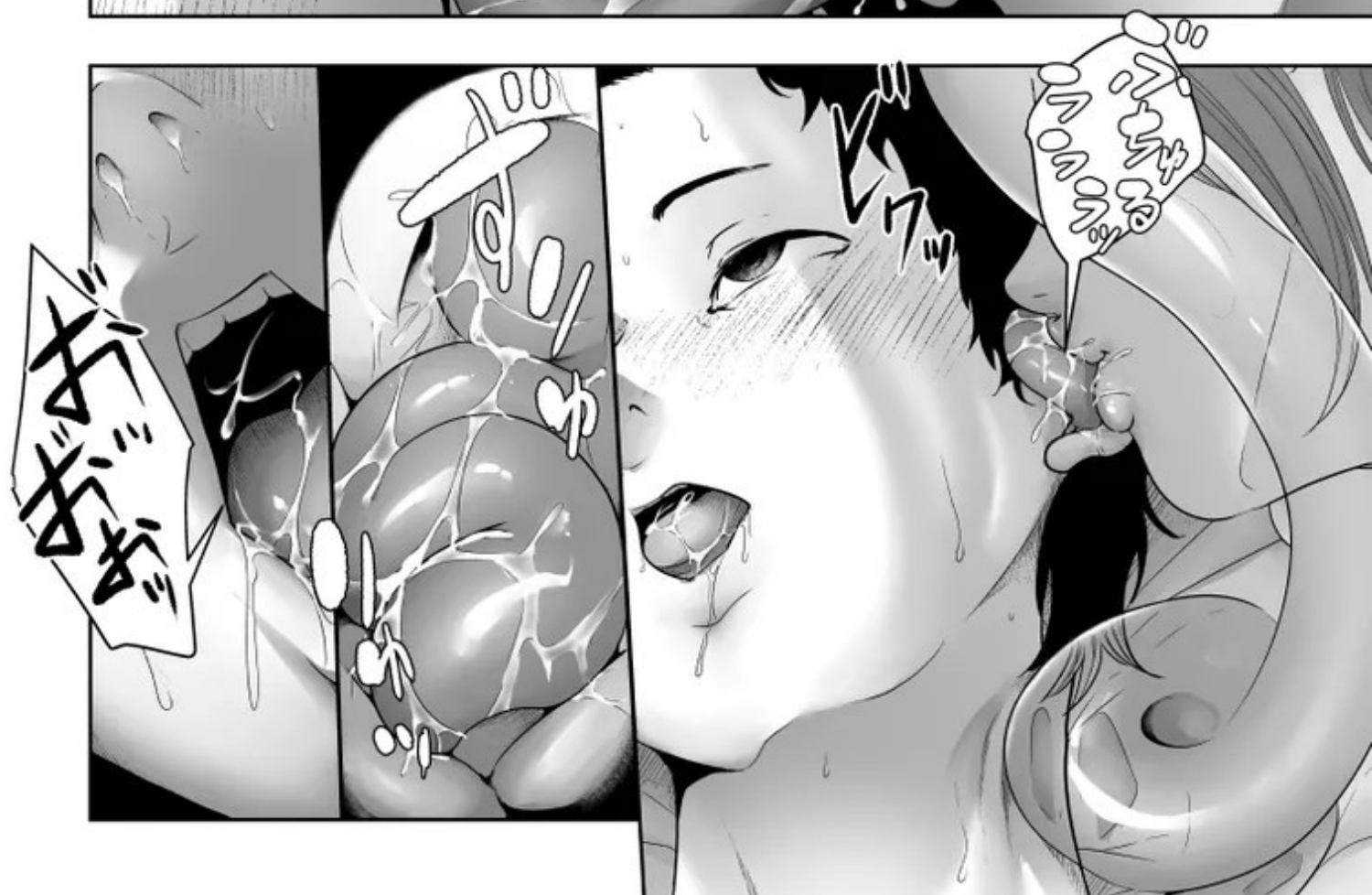
んっ
……



次は…

私の番ね…









油断した…

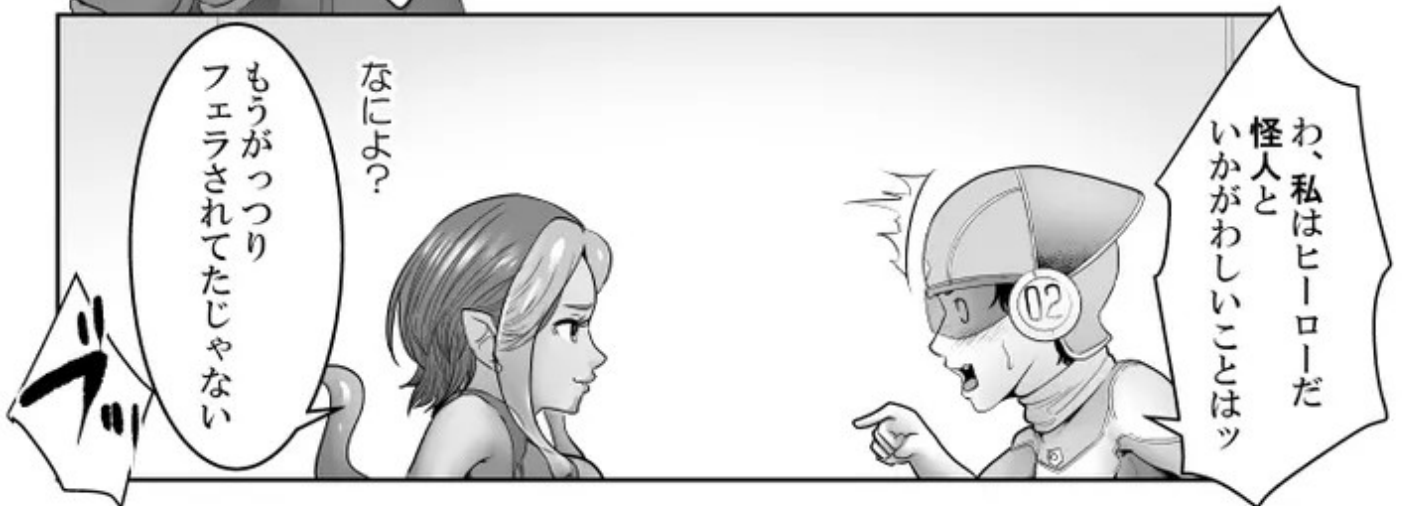
そんなに
警戒しなくても
大丈夫よ

それじゃあ
続きをしましょ

!?



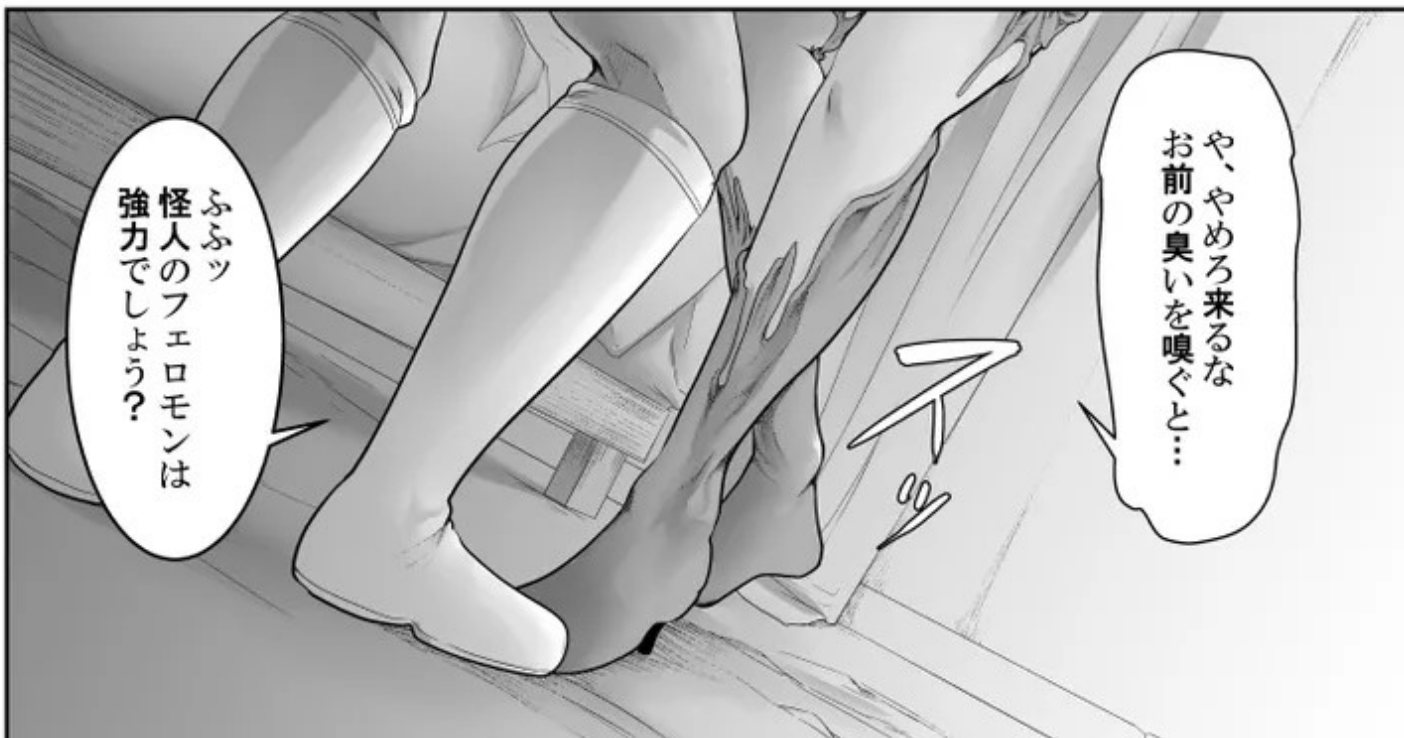
変身ツツ!!



わ、私はヒーローだ
怪人と
いかがわしいことはッ

なによ?

もうがつつり
フェラされてたじゃない



や、やめろ来るな
お前の臭いを嗅ぐと…

ふふッ
怪人のフェロモンは
強力でしょう?

たとえヒーローでも
あれだけ触れ続けたら…

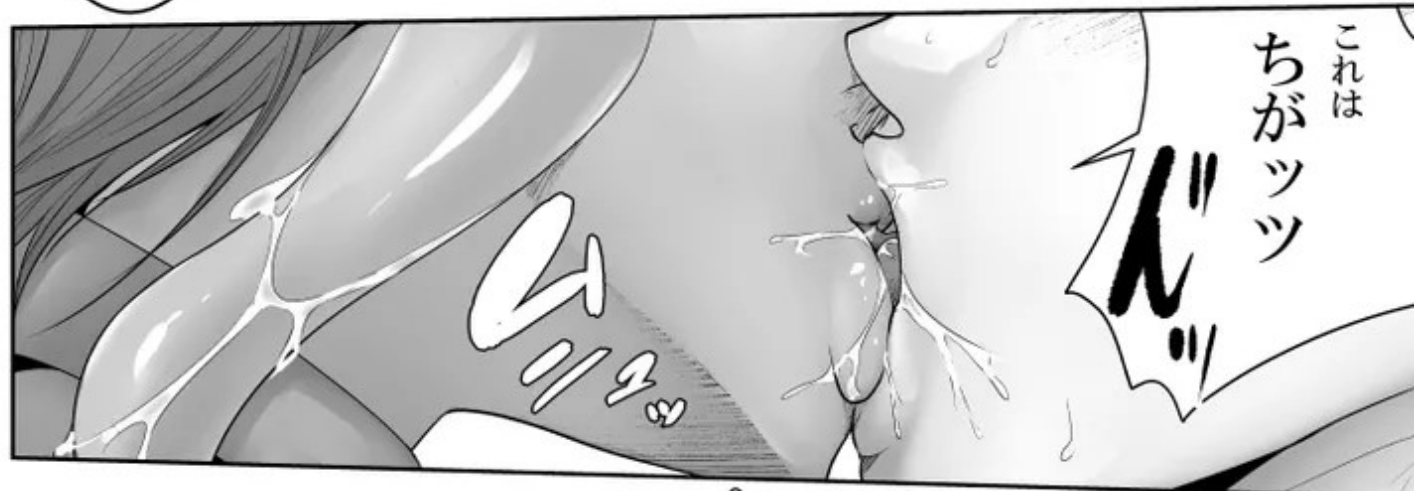
んっっ

体が生殖活動を
求めてしまうもの

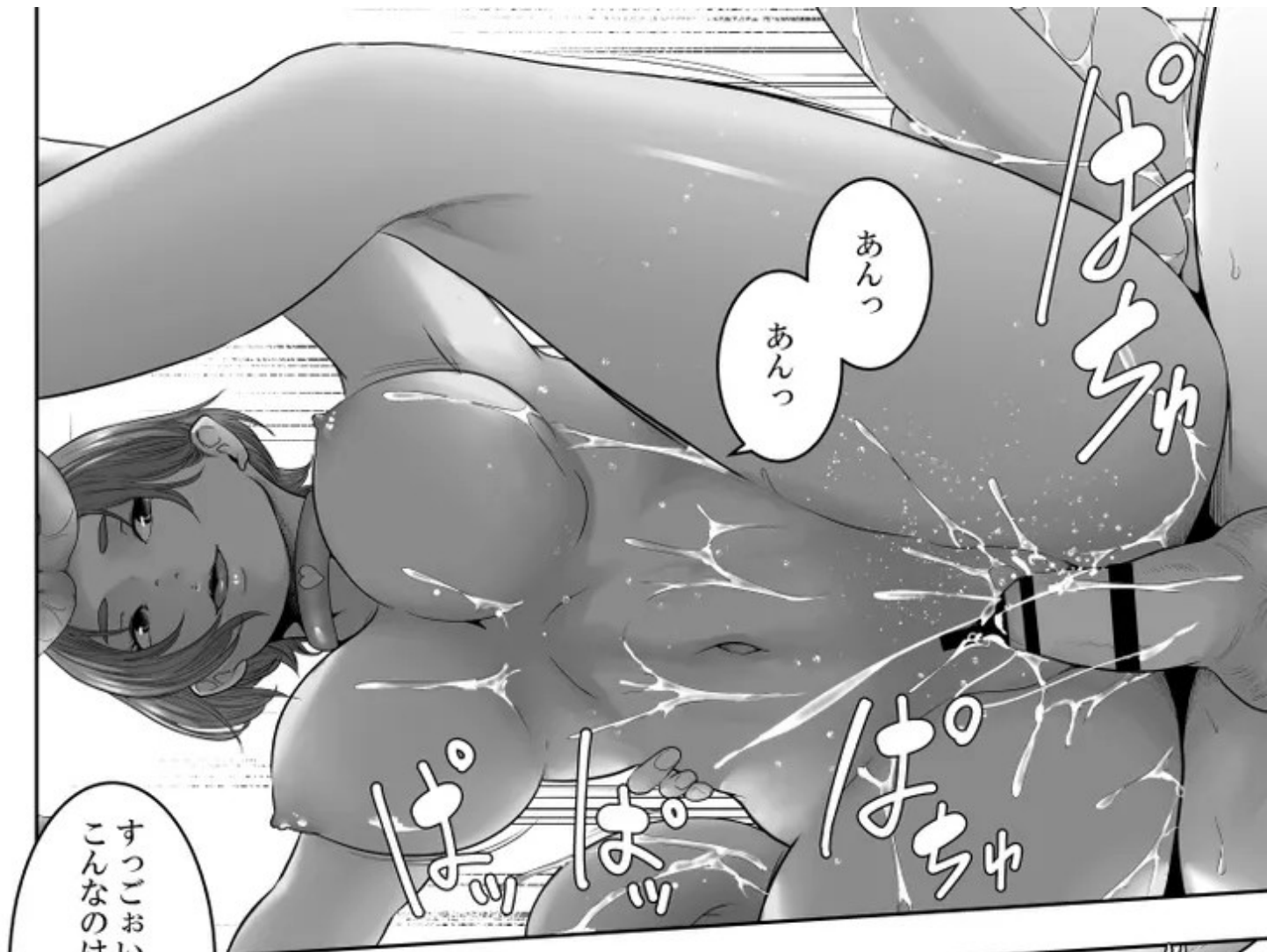
だからブルーこれは
仕方がないことなのよ

貴方は悪くない…

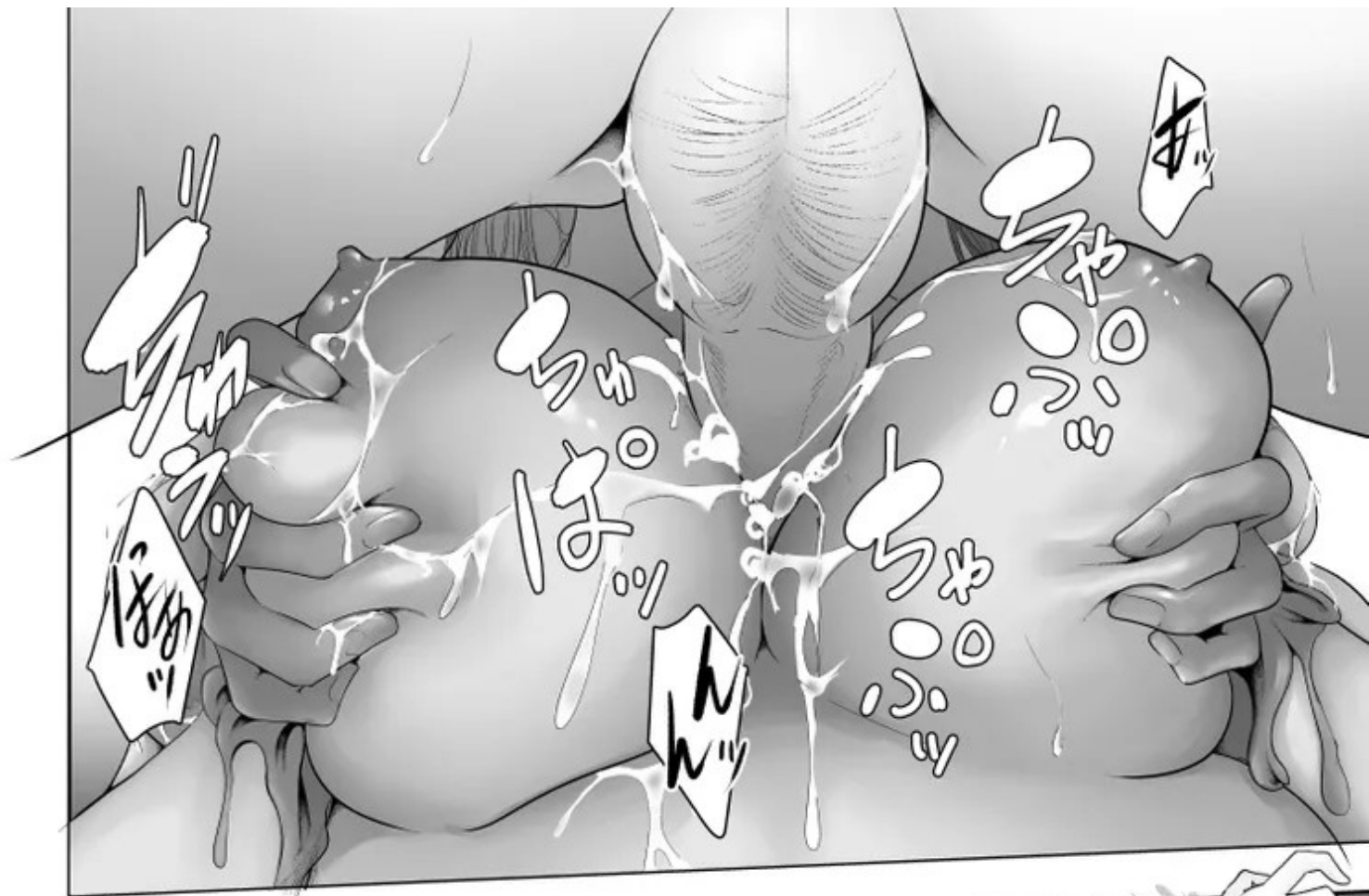
わるく…ない……























ごちそうさまッ

ありがとうフルー...

すごく
おいしかったわ

怪人がどれだけ暴れても
毎度ヒーローに
同じように倒される

そんな生活に
私は辟易していた

超人の彼らに真正面から
戦っても勝ち目はない
だから私は彼の誘惑し
調査する機会を欲した

※フルー気絶中
ホテルにて

データの収集は
順調に進み

私は彼らヒーローの
抗体に注目した

「ヒーロー抗体(仮名)」は
まさに英雄が英雄たる所以

それは、自分自身を
常に正常な状態に戻す
自己修復能力を持っていた

故にスライム分体での
洗脳では一時的な
効果しか得られない

そこで私は、抗体の性質
そのものを利用できないか
策を巡らせることにした

ヒーロー因子との適合率
69...%



結論として
私は、自身の体を
ヒーロー細胞と
同化させた



融合率は
どうだった？

悪くない…

は、はい
規定値95%を
クリアしました

これで、分体を産み付けても
それ含めて正常な体として
判断されるはず…



※触覚的刺激

指示した誘惑作戦は
どうなってる？



じゅ、順調です
かなり溜まってきて
いると推察できます

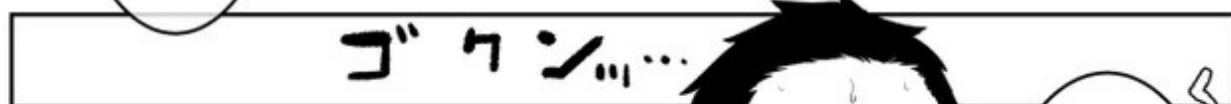
※嗅覚的刺激



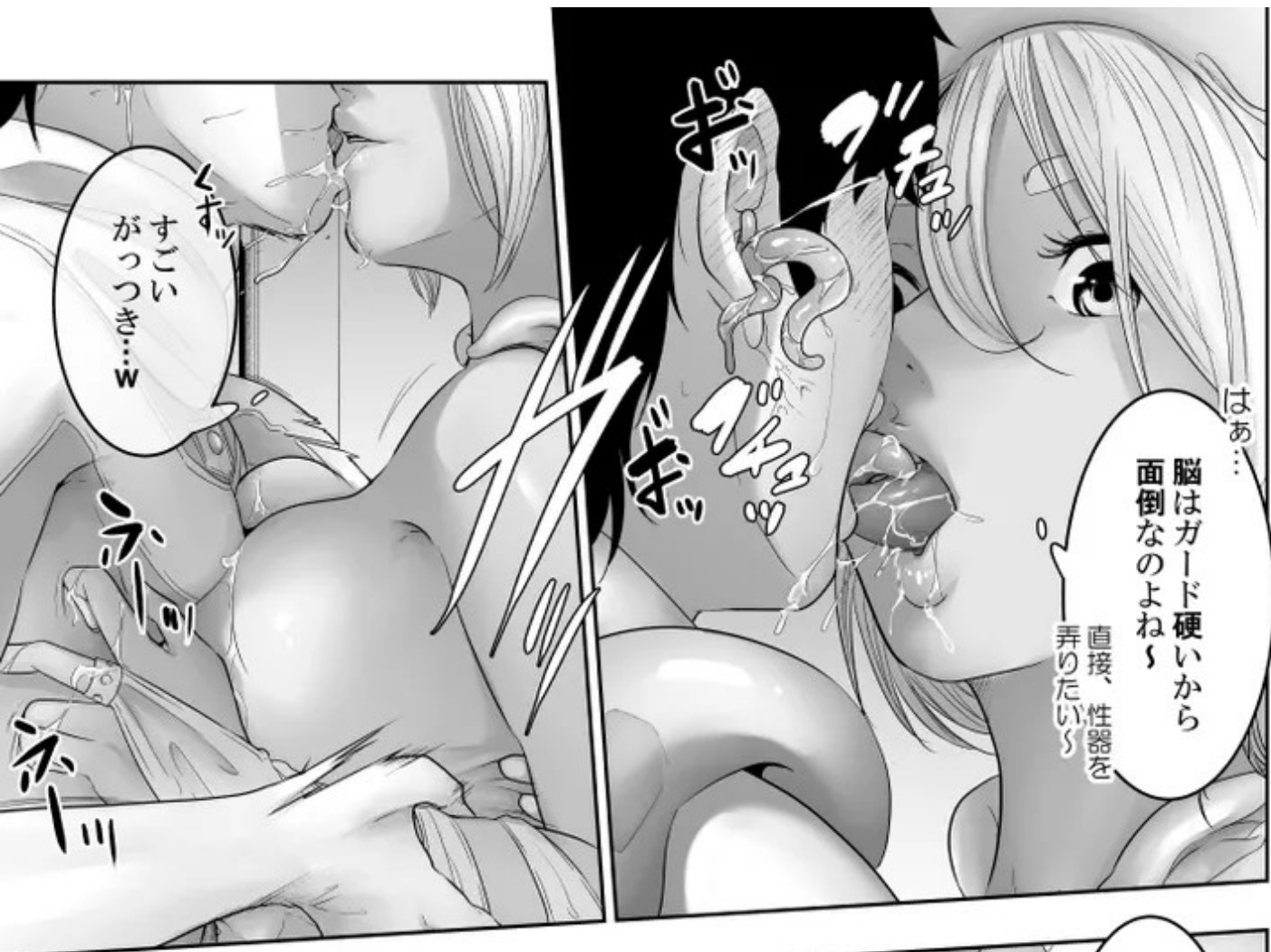
それじゃ早速
仕掛けに行きましょうか













どんだん侵入
しちやうよーん

くふふッ
体の中から
犯しつくしてあげる♥



ああ...たまんない
これで私が...

初めてヒーローを

御した怪人にッ♥

おっおっ
おっおっ



キョ

ほらっ…いけッ

いい感じ……ね
思い通りに射精せる

後はこいつの脳を弄って
ヒーローエネルギーと
精子を直結させて……





ほらブルー
こっちにおいで

私に貴方のすべてを
注いでちょうだい

あっあっ

んっ

ああんっ





私が全部
搾り取ってあげる♡

最近、頭に靄がかかっている感じがする。

大量の怪人が出現し、苦戦を強いられた、あの日。私は、怪人の手によってレッドたちと分断された。死に物狂いで戦って、何とか再合流した後、合体技で敵を殲滅した……。

……そう、殲滅したのだ。それは間違いない……はずなのに、違和感がぬぐえない。

■私たちヒーローは、二部制をとっていて、交互に休みながら戦闘に備えている。レッド・ピンク・ブルーのAチームとブラック・イエロー・グリーンのBチームだ。

今日は、Aチームが休みの日だ。レッドとピンクは恋仲ということもあり、ブルーの私は基本一人で休暇を楽しむ。正直、二人が羨ましいと思わなくもないが、最近、私にも異性との交流の場が増えた。故に嫉妬心はない。

今日も今日とて、私はその喫茶店に足を運ぶ。

■カランカラン……。ドアベルが鳴り響く。レトロな風体の喫茶店には、少し浮いた格好の女の子たちが客を迎える。

「あら、いらっしやい。また来てくれたのね……」

「ああ……ほんと毎日来たいくらいなんだが」

「……ふふありがと。でも、ちゃんとお仕事はしないと」

「はあ……ほんときつい仕事が多くてさあー」

「安心して……いつも通り私たちが癒してあげる」

ふわっと甘い匂いが辺りを漂う。ぽよん……。客の顔が喫茶店の娘の胸に包まれる。

（あれ……ここ喫茶店だよな……）

客の体に店員たちの素肌が擦り込まれていく……。

（……なんでこんな淫らな格好して……）

「さあ、『いつもみたい』奥の部屋で、辛いことぜーんぶ忘れて気持ちよくなりましょう」

彼女たちの言葉が、客の脳内にこだまする。

（ああ……あああああ……）



Twitter: @MonochroDouzin

ファンティア:

モノクロイドの整備場

お久しぶりです……………本当に…。
ファンティアを始めて、定期的に作品を投稿できるようになったものの、メインの作品制作がなかなか進まない……
モノクロイドです。

あとがき

ご購入したことありがとうございます。
いかがでしたでしょうか。
ご満足いただける内容であれば幸いです。

今回の作品は、正義のヒーローが快楽に負けてまい女怪人と性行為に及んでしまうお話です。悪に負けるシチュは背徳感がいいですね。

元々、ファンティアにて下書き漫画として、あげていた「怪人セクキャバ」シリーズを清書、もといかなり弄った作品です。

セクキャバシリーズは、怪人が運営するセクキャバにヒーローが嵌っていくお話で、今回の話は、前日譚みたいなものです。

次回以降ですが、遊びのつもりだったのに（総集編）を描き上げる予定です。今作を短編のつもりで描いていたのに、もう11月…。描く速度は上がっているのですが、他に気になる点が出てきて、結局遅くなる…。うん、もう速さを考えるのはやめます。私は「描くのが遅い」と開き直って、納得できる形になったら販売！という形にします。

また時間が掛かるかと思いますが、気長にお待ちいただけると幸いです。

作品に関してご意見ご感想などありましたらコメントしていただけると嬉しいです。
お気軽にどうぞ。

モノクロイド

戦隊ヒーロー快樂堕ち計画

2025年11月

戦隊ヒーロー快樂堕ち計画

作者… モノクロイド

シリーズ… 怪人セクキャバ

本作品はフィクションであり
実在の人物、団体などとは関係ありません

本書の無断複写・複製・改ざん
web上へのアップロードを
禁止しています。



した
いなら

んと馬
男

